

科目名	災害復興とまちづくり			ナンバリング	rec261	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	この授業では、過去の大規模災害において復興がどのように成し遂げられたのかを「まちづくり」の視点から考えてゆく。震災からの復興過程は緊急期、応急対応期、復旧・復興期というプロセスをたどるが、それらの各段階において何が求められるのか。この授業では、生活再建課題7要素に注目しつつ、特に「住まい」「仕事」「コミュニティ」の回復のためにどのようなことが出来るのかを考えてみたい。最後に、今回の東日本大震災における復興過程を振り返り、今後の大規模災害に向けて何をすべきかを考える。						
到達目標	1. 震災復興におけるまちづくりの意義を理解し、それを具体的な災害状況に即して説明することができる 2. 東日本大震災を念頭におき、具体的な震災復興の事例から、その課題と改善策についてレポートを書くことができる。 3. 今後の人生において、自らが暮らす地域の事前復興を立てることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業で出てくるキーワードについて、新聞や辞書などを通じて知識を得ておくこと。加えて、授業後には、参考文献で示している文献などを通じてさらなる理解を深めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 災害復興の取り組みについて関心を持ち、それについて理解することができる。 2. 災害復興に関する基本的な理論について理解することができる。 3. 災害復興についての具体的計画書を作成することができる。	1. 各地の災害復興の取り組みについて関心を持ち、それについて批判的に検討することができる。 2. 災害復興に関する基本的な理論について理解し、それを具体的な事例を理解する際に応用することができる。 3. 災害復興についての具体的計画書を作成し、それが効果を上げる計画としてすぐにも実施することができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
最終レポート	○	○			○		60%
授業内課題	○	○			○		15%
リアクションペーパー		○	○		○		15%
授業態度・授業への参加				○			10%
出席				○			加点はしない。欠席は減点となる。

課題、評価のフィードバック	1. 授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。疑問点や感想を書いてもらい、次週の授業でコメントする。 2. 学期末レポートについては、コメントをつけて返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション——授業の進め方・授業の仕方	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解する。授業支援システムの使い方について理解できる。	
	第2回	災害発生から復興へ——災害のサイクル	災害復興について考える際の基本的な概念について理解することができる。	
	第3回	災害復興とは何か	災害復興として求められることがらを、住まい、つながり、雇用と生業などの要素に分けて理解することができる。	
	第4回	住まいの復興(1)	被災者の住宅再建に関する基本的な枠組みについて理解することができる。	
	第5回	住まいの復興(2)	阪神・淡路大震災における災害公営住宅の供給とその問題点について理解することができる。	
	第6回	住まいの復興(3)	東日本大震災における災害公営住宅ならびに復興公営住宅の供給について理解することができる。	
	第7回	つながりの再生(1)	災害発生とコミュニティの重要性について理解することができる。	
	第8回	つながりの再生(2)	災害復興におけるコミュニティ再生について、具体的な事例を理解することができる。	
	第9回	雇用と生業の再建(1)	災害発生と被災地区の雇用との関係について、さらに政府の雇用施策について、東日本大震災を事例に理解することができる。	
	第10回	雇用と生業の再建(2)	被災地において展開されている仮設商店街とその役割について理解することができる。	
	第11回	雇用と生業と再建(3)	福島第一原発事故による被災地における事業再開とそこにおける課題について理解することができる。	
	第12回	復興計画をつくる(1)	東日本大震災における津波被災地の復興計画について、その内容と課題について理解することができる。	
	第13回	復興計画をつくる(2)	東日本大震災における原発事故被災地の復興計画について、その内容と課題について理解することができる。	
	第14回	復興<災害>という視点	復興を進めていく際に発生する「災害」について、事例に則して理解することができる。	
	第15回	まとめ	これまでの議論を振り返り、これからの災害復興について総合的に理解することができる。	
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方	基本的に講義と質疑応答に基づき授業をおこなう。授業終了後にはリアクションペーパーを執筆してもらい、翌週の授業でそれに対してコメントする。授業のなかで、二回ほどグループワークを実施する。			
授業外学習の指示	事前にmanabaにてシラバスを提示するので、それをみて分からない用語、内容を確認しておくこと。配付資料を中心に授業の復習をおこない、場合によっては参考資料などを読むこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)			

教科書	教科書は使用しない。
参考書	
参考URLなど	
その他	